

Economic Indicators

発表日:2022年1月20日(木)

貿易統計(2021年12月)

～自動車輸出の持ち直しが継続～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	金額		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
				輸出金額	輸入金額								
20年	11月	3,259	7,209	▲4.2	▲10.5	▲3.8	▲2.6	▲7.2	▲4.0	▲2.0	▲19.1	▲12.7	4.7
	12月	7,083	7,180	2.0	▲10.9	0.1	▲3.3	▲8.0	5.4	▲1.9	▲22.8	▲1.1	2.3
21年	1月	▲3,272	5,817	6.4	▲9.5	5.4	▲8.7	▲26.5	18.4	▲4.1	▲10.5	▲10.9	▲2.9
	2月	2,117	169	▲4.5	11.8	▲4.4	▲16.4	▲24.2	▲0.2	21.9	▲7.9	1.6	43.8
	3月	6,578	3,139	16.1	5.7	12.6	3.9	▲7.2	20.4	3.8	▲0.7	9.0	8.4
	4月	2,488	880	38.0	12.7	28.5	37.8	13.4	23.0	1.1	▲4.8	5.2	4.4
	5月	▲1,934	▲131	49.6	27.7	38.5	77.6	37.9	21.6	6.8	5.0	23.3	7.1
	6月	3,789	▲1,624	48.6	32.5	37.2	79.7	25.0	26.1	8.2	9.1	27.0	8.7
	7月	4,358	▲275	37.0	28.1	25.2	19.4	38.9	20.4	2.0	2.3	▲0.6	4.5
	8月	▲6,431	▲3,155	26.2	44.5	13.7	13.2	29.2	11.1	14.4	12.8	28.2	13.1
	9月	▲6,296	▲6,033	13.0	38.3	3.3	▲9.8	15.3	8.9	7.4	16.9	6.1	6.6
	10月	▲685	▲4,183	9.4	26.7	▲2.6	▲8.2	5.2	▲0.1	▲3.0	2.0	2.3	▲4.4
	11月	▲9,548	▲4,868	20.5	43.8	4.7	▲2.8	10.8	5.5	6.1	17.1	24.2	2.0

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○輸出は持ち直しが続くが、輸入の高止まりで貿易収支は赤字推移

財務省より発表された12月の貿易統計によると、貿易収支は▲5,824億円の赤字(コンセンサス:▲7,805億円、レンジ:▲9,465億円～▲4,451億円)と、4カ月連続の赤字となった。輸出金額は前年比+17.5%(コンセンサス:+16.0%、レンジ:+12.9%～+21.8%)、輸入金額は同+41.1%(コンセンサス:+42.9%、レンジ:+38.7%～+45.7%)となった。

部品調達難による大幅減産を背景に低迷していた自動車輸出が、12月は前年比+17.5%と2カ月連続でプラスに回復となり、輸出全体も持ち直しの動きが続いている。その一方で、輸入は原油価格の高騰を反映して前年比の伸びが高止まりする状況が続き、貿易収支は赤字での推移が続いている。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲0.2%、輸入金額が同▲0.7%となり、貿易収支は▲4,353億円の赤字となった。

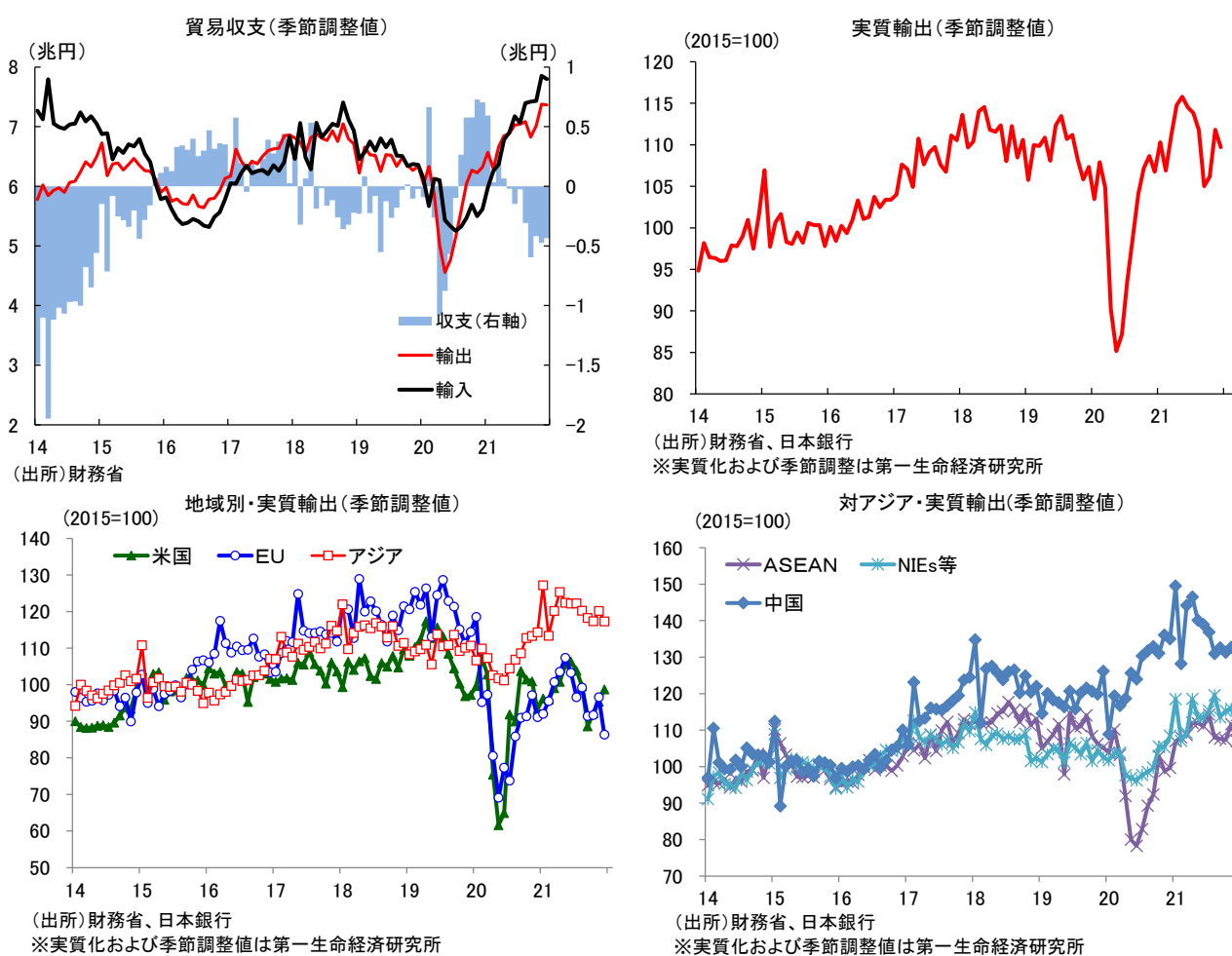
○12月も自動車の回復が継続

為替などの価格変動の影響を除いた12月の実質輸出は、前月比▲1.9%(11月:同+5.3%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)となった。12月は、自動車生産の回復によって輸送用機械が前月比+0.3%(11月:同+40.3%)となり、持ち直しの動きが続いた。ただし、米国向けやEU向けを中心に一般機械(前月比▲3.0%)や電気機器(前月比▲0.7%)が減速したことが足を引っ張った。これまで好調だった資本財に、このところ頭打ち感がみられる。

10-12月期の実質輸出は前期比▲0.9%（7-9月期：同▲4.2%）となった。前期比ではマイナスが継続したが、11月・12月は自動車生産の回復が続いたことで、基調としては持ち直している。10-12月期の内訳を国・地域別にみると、米国向けが前期比▲2.0%（7-9月期：同▲6.6%）、EU向けが前期比▲4.4%（7-9月期：同▲8.6%）、アジア向けが前期比▲1.6%（7-9月期：同▲2.5%）、うち中国向けが前期比▲1.2%（7-9月期：同▲5.9%）となった。すべての地域で夏場の落ち込みを取り戻すには至らなかったものの、米国向けについては輸送用機器が10月以降3カ月連続で増加しており、堅調に持ち直している。

○感染動向による不透明感が強いものの、赤字幅縮小に向かう

先行きについては、輸入の高止まりが続くものの輸出が持ち直すことで、貿易収支は赤字幅縮小に向かうだろう。輸出は、来月以降も自動車生産の回復が続くことで持ち直しの動きが続く見込み。もっとも、オミクロン株をはじめ世界的な感染拡大が続いており、世界経済の不透明感が強まっている。再びの供給制約等による減産リスクに注意が必要だ。輸入については、当面は高止まりが続く見通し。ドバイ価格は、オミクロン株の登場によって12月頭に一時68ドルまで急速に下落したものの、その後は過度な警戒感が薄れたことによって、足元では再び80ドル台まで持ち直している。この動きを反映して、来月は一旦上昇幅が鈍化するものの、その後は再び伸びを強めるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。